

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2670900683
法人名	医療法人 朗友会
事業所名	グループホーム さいわい
所在地	京都府京都市伏見区向島本丸町28番地の2 (電話) 075-612-0500

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年4月15日	評価確定日	平成20年7月22日

【情報提供票より】(平成 20年 5 月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 9人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 3 階建ての 3 階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	原状回復費	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	300 円
	または1日当たり			

(4) 利用者の概要(5月 7日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1		名	要介護2	2	名
要介護3	6	名	要介護4	1	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 89.2 歳	最低	84 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さいわい病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人朗友会のグループホームです。1階2階は、デイサービスが併設されており、3階がグループホームになっています。エレベーターで上がると、利用者と職員の手作り作品を飾ったり、花壇から摘んできた季節のお花や観葉植物が生けられています。また、ベンチが設置されており、利用者同士や一人でもゆっくりと過ごす事が出来るような心地よい空間があります。口腔ケアに力を入れられており、ケアの方法がわかりやすく掲示されています。併設されているデイサービスの利用者との交流や季節に応じたの行事、消防訓練などに参加し、連携を取っています。また、法人の畑、「さいわい農園」で採れた新鮮な野菜が食事に使われています。利用者同士や、職員との会話も弾み、一日がゆっくりと穏やかに流れています。母体が医療法人で、安心して毎日を過ごす事が出来る環境にあり、遠出の外出には医師も同行されています。

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点であった介護記録を変更し、トイレの目隠しの設置については、職員全員で試行錯誤し、安全面を第一に改善されました。また、書類に利用者の権利規定が明示されました。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	管理者が中心となり、ホーム会議で職員からの意見を吸い上げ自己評価票が作成されています。評価の意義についての説明を行い、外部評価後は職員で話し合い、具体的な改善に努める予定です。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	利用者、家族、町内自治会会長、京都市向島地域包括支援センター、管理者、職員等の参加があり、2~3カ月に1度の運営推進会議が開催されています。ホームでの活動報告や利用者の紹介、意見交換など自治会や地域の情報を得る機会ともなっています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	家族の来訪が多くあり、面会時には、直接コミュニケーションを取り、様子を伝え、希望や意向を聞いています。写真入りの「さいわいグループホームだより」を4カ月に1回発行し行事での状況や利用者、職員紹介をしています。また、事務所前に、意見苦情箱を設置しています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

自治会に加入されています。散歩での挨拶や近所の方がお花を持ってきてくださったり、地域の方が集まる併設のデイサービスの催しものに参加し、交流に努めています。小学校の低学年の訪問や中学校の体験学習などもあり、運動会を見学をすることもあります。今後、幼稚園や保育園にも声かけをする予定です。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に関わった職員の声を基に、思いを含めたグループホームとしての理念がありますが、その人らしく地域で暮らしていくことについて、理念の中に明文化されていません。	○	地域密着型サービスのホームとして、今ある理念に地域での役割という観点からの文面を盛り込まれる事を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に唱和しており、事務所の前と事務所内に分かりやすく掲示してあります。職員は、ケアにいきづまった時や問題が生じた時など理念に立ち返り、実践に向けて取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており地域の行事等様々な回覧が回ってきます。天気の良い日の散歩や施設内の花壇に近隣の方がこられ、挨拶や会話を交わしています。地域の方が参加できるよう行事案内の看板を立てたり、病院にチラシを置き、デイサービスの行事案内をして、参加していただき、地域の方との交流に努めています。また、運動会の見学に行ったり、小学校低学年の訪問や中学生の体験学習などもあります。今後、幼稚園にも声かけしていく予定です。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の意義を理解しており、前回の評価結果を踏まえ、介護記録の変更やトイレの目隠しの設置等、職員間で話し合いをもち改善に向けて取り組みました。今回の自己評価・外部評価についても事業所や自己を見直す良い機会と捉え、管理者中心に職員全体で話し合いをもち、自己評価をまとめました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、京都市向島地域包括支援センター、町内自治会会長等の参加があり、2~3カ月に1度の運営推進会議が開催されています。ホームでの活動報告や利用者紹介や意見交換などをしており議事録が作られています。また自治会や地域の情報を得る機会ともなっています。		

グループホームさいわい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、電話で利用状況や困難事例などについて相談しています。今後、サービスの向上に向けて、積極的に関わっていく予定です。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が多く、その都度コミュニケーションを取り日頃の暮らしぶり等の報告をしています。金銭管理については、一人ひとりのノートを作り、預かり金とレシートを見せ確認し、サインをもらっています。4か月に1回、写真入りの「さいわいグループホームだより」を発行し、行事での様子や利用者、職員の紹介をしています。また、何かあれば、すぐに電話にて対応しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所前に相談箱を置いています。利用者や家族からの相談や苦情は、出来るだけすぐに対処し、報告書に記入し職員で話し合い検討しています。それを介護記録にまとめ、職員全員が把握できるようにしています。また、以前受け入れのあった介護相談員に現在も外出レクリエーションに参加して頂いたり、介護相談に載って頂いています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の心身の状況に気を配り、日々のコミュニケーションを大切にしています。また、職員一人ひとりとヒアリングの機会を設けストレスを少なくするための体制を整えています。職員が交代する場合は引き継ぎ期間を設け自然な形で交代できるよう配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	長寿すこやかセンターの研修計画や法人での研修、併設のデイサービスとの合同研修に参加できるよう配慮しています。研修に参加できなかった職員は、研修記録とレジュメを回覧しています。	○	数多くの研修に参加し、職員育成に努力されていますが、会議等で研修内容を報告し、職員全員に浸透させる伝達研修の機会を作れば、報告書の回覧以上の成果が期待できるのではないのでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護相談員が派遣された事業所の集まりがあり、意見交換や話し合いをしています。	○	事業者同士の職員の交流も図り、交換研修などの取り組みについても検討されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、1～3週間の体験入居の機会を設け、雰囲気馴染んでもらえるよう工夫をしています。家族や利用者からの情報提供以外の個々の状態を知ることのできる機会となり、またこの間、医師が身体的な情報を得ながら、このホームで生活できるかどうかの判断もしてくれます。また、ホーム独自の「見学、入居のしおり」、「グループホームQ&A」など、利用するための分かりやすいパンフレットも用意しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に生活する中で、昔の体験談や野菜の採り方、草引き、花の切り方、お寿司の作り方など、職員が利用者から学べる場面作りをしており、コミュニケーションを大切に共に支えられる関係作りを努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の思いを受け止められるよう、日々の関わりや記録の中で一人ひとりの意向を把握するよう心がけています。テーブルの座る位置についても、出来るだけ利用者の希望に添うようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を基に作られた介護計画について職員全員で意見やアイデアを出し合い、一人ひとりにあったケアプランが立てられています。カンファレンスには、利用者や家族、介護支援専門員、職員の参加しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6カ月毎の見直しや毎月のモニタリングを行い、状態に変化がある場合は随時見直されています。また、退院後は、医療機関からの情報を得てケアプランにも反映させ、日常の変化についても、ミーティングや申し送りノートで検討し、見直されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に合わせてかかりつけ医の通院介助や買い物、これまでの生活を継続して頂けるように個別の外出行支を行っています。また、併設のデイサービスのカラオケや行事に参加することもあります。家族が利用者の部屋で泊られることもあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、法人の病院をかかりつけ医とすることに同意をもらっています。週に2回の往診があり、遠方外出時には、医師の同行もあり、電話での相談や緊急時・夜間対応もすぐに対応できる体制があります。また、訪問歯科も利用できます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合について、入居時に家族に説明を行っています。家族や医師、管理者、職員が状況に応じて話し合いを重ねながら、方針を決めています。終末期はホームで、との思いはありますが、大半の家族からの入院希望があり、実現には至っていません。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに気を配り、利用者の自尊心を傷つけないよう対応されています。声かけや言葉遣いにも気を配り、職員同士で気がつけば、注意し合っています。また、法人での接遇研修に職員は参加しています。個人ファイルは、事務所のデスクの上に置いてありますが、鍵がかけられるようになっています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの起床に合わせて朝食がとられたり、通院や家族の来訪に合わせ、思い思いに過ごせるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の厨房より、調理されたものが届く為、一緒に準備や調理をすることはありませんが、「さいわい農園」で採れた野菜が料理に使われているという事を会話の中に盛り込んだり、おいしそうに盛り付けするなどしています。また野菜の苦手な利用者には、口に残らないように細かくしたり、混ぜてわからないようにしたり別のメニューにて対応するなど、食事がおいしく楽しみになるように工夫しています。	○	利用者の状態によって、出来る事、出来ないことを見極めて、準備など利用者の横で話をしながら、すこしでも一緒に出来ることを考えてみてはいかがでしょうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金・土・日と週に5日の入浴日があり、10時～11時半まで入れるようにしています。午後は希望があればシャワー浴ができるようになっています。拒否傾向のある利用者には、職員が何度か声かけしたり、清拭などで対応しています。また、その日の体調や状態に合わせて、足浴をする場合もあります。	○	1時間半の入浴時間に限らず、午後からの入浴も検討もされてはいかがでしょうか。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お花の水替えや利用者の部屋のモップかけ、洗面所、ベッド周りのふき掃除など役割や楽しみを感じながら生活できるよう支援しています。また、1階の花壇を見に行ったり、買い物に出かけたり、併設のデイサービスにカラオケに行ったり、ピアノに合わせ童謡を歌い声を出すことですっきりとした表情が見られ、気分転換することで生き活きとされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、利用者に行きたい所の希望を聞き、天気の良い日は、車椅子も使用しながら、花壇や散歩・買い物などに出かけています。時にはお弁当持参で、家族と一緒に医師も同行し桃山城の桜や向島中央公園につつじを見に行く事もあり、外出の機会を作っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関の鍵は開けていますが、交通量も多く、家族からの希望もあり、3階にあるホームのエレベーターは、暗証番号で動くようにしています。行動に注意を払らい利用者が出かけたい様子を感じたら、職員が付き添い、出かけるようにしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下年2回、地域の方や併設のデイサービス利用者と一緒に、夜間を想定した避難訓練を実施しています。また、地域の住民である職員が、地域の消防訓練に参加する事もあります。法人の寮が、ホームの裏側にあり、何かあればすぐに駆けつけてもらえるようになっています。		

グループホームさいわい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については毎食、水分もコップ1杯を目安に飲まれた量を記録しています。法人の管理栄養士が立てた献立をベースに、さいわい農園で採れた野菜を使い、バランスのとれた食事を提供しています。利用者の状態に応じて、自助具を使ったり、ゼリー状にしたりとろみ付けて食べやすい工夫をしています。また、治療食についても対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るく、直射日光が当たらないようレースのカーテンや窓の外からの遮光板を使用し、随時換気し空気の澁みがないよう配慮されています。花壇で摘んできた季節の花を生けたり、職員が作ったパッチワークを飾ったり、エレベータ前にはベンチが置いてあり、利用者がひとりになったり、気の合う利用者同士でお話ができるような工夫もされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるタンス・テレビ等が置かれ、写真やお箸・茶わんなども持って来られています。希望に添って畳を敷くこともでき、一人ひとりの好みや生活スタイルに合わせた空間づくりに配慮され、心地良く過ごせるよう、安全を第一に危険の無い暮らしを家族と協力しながら支援しています。		